

ぶんぼう

① Vて形

れんしゅう 1-2

様々な表現に使われる活用形である。活用法は次の通りである。

Vグループ1

辞書形が /u/行で終わる動詞、「買う」、「書く」、「泳ぐ」、「はなす」、「たつ」、「作る」などは、辞書形の最後の音を次のように活用する。

う、つ、る	⇒	っ	+	て
買う	→	買	っ	て
たつ	→	た	っ	て
作る	→	作	っ	て
く	⇒	い	+	て
書く	→	書	い	て
★例外 行く	→	行	っ	て
ぐ	⇒	い	+	で
泳ぐ	→	泳	い	で
す	⇒	し	+	て
はなす	→	は	な	し
ぬ、ぶ、む	⇒	ん	+	で
しぬ	→	し	ん	で
あそぶ	→	あ	そ	ん
飲む	→	飲	ん	で

Vグループ2

辞書形が -i る か -e る で終わる動詞、「いる」、「おきる」、「見る」、「ねる」、「食べる」などは、「る」をとって「て」をつける。

見る	→	見	て
おしえる	→	おし	え

★-i る・-e るで終わる動詞の中に、例外的にVグループ1に属する動詞がある

切る	→	切	っ
かえる	→	か	え

Vグループ3

来る、する、は以下のように活用する。

来る	→	来	て
する	→	し	て

② Vて ください。

れんしゅう 3

相手に、ある行動をするように丁寧に指示する表現である。

〈先生が学生に40ページを開けるように言う〉

きょうかしよの40ページをあけてください。

〈先生が学生に、もっと一生懸命に勉強するように言う〉
もっといっしょうけんめいべんきょうしてください。

〈クラスのリーダーが、先生に宿題を提出するために、友達から宿題を集める〉
はやくしゅくだいをだしてください。

〈家庭科の授業で役割分担に従って、友達にやさいを切るように言う〉
ティップワンさん。やさいを切ってください。

③ **Vて くださいますか。**

れんしゅう 4-7

話し手にとって利益となるような行為を丁寧に依頼する表現である。疑問文で依頼することで、相手に断る余地を与えることができ、タイ語では[chûay...nòy dai mǎi khráp/khâ]となる。また、最初に「すみませんが、」と付け加えることで、相手へ遠慮の気持ちを表すことができる。

〈学生が先生に、分からない点の説明を再度お願いをする〉
すみませんが、もう一度説明してくださいませんか。

〈学生が日本人に、言葉の意味を教えてもらえるよう、依頼する〉
ことばのいみをおしえてくださいませんか。

〈学生が先生に、もっとゆっくり言ってもらえるよう、願います〉
すみませんが、もうすこしゆっくり言ってくださいませんか。

依頼を引き受ける時、「はい。」と返事をする。また、依頼に応じて、相手に何かを渡す場合、「どうぞ」も一緒に言ってもよい。

〈辞書をとるように依頼された時〉
A: すみませんが、じしょをとってくださいませんか。
B: はい、どうぞ。

〈漢字を書くように依頼された時〉
A: すみませんが、このかんじを書いてくださいませんか。
B: はい。

依頼を断わる場合、第7課で取り上げた断り方と同様に、直接的には断わらない。

A: すみませんが、じしょをかしてくださいませんか。
B: すみません。今、ちょっと……。

断る理由を説明することもある

A: すみませんが、じしょをかしてくださいませんか。
B: すみません。今使いますから。(「から」の用法については⑦を参照)

④ **ありがとうございます。／ありがとうございました。**

れんしゅう 4

「ありがとうございます。」は、感謝の表現である。例えば、プレゼントやアドバイスをもらった時や、何か貸してもらった時などに使う。

A: おみやげです。どうぞ。
B: ありがとうございます。

A: けしゴムがありません。かしてくださいませんか。
B: はい、どうぞ。
A: ありがとうございます。

「ありがとうございました。」は、感謝表現の過去形である。道を教えてもらった時や目的地まで案内してもらった時、何かを教えてもらった時、借りた物を返す時などである。

A: 暑いです。まどをあけてくださいませんか。
B: はい、いいですよ。
< Bが窓を開けた >
A: ありがとうございました。

⑤ **Vます方**

れんしゅう 6

「～方」はタイ語で[withii]という。Vますの形と結合し、一語の名詞になる。

書きます + 方 ⇒ 書き方
行きます + 方 ⇒ 行き方

これから、このかの新しいかんじの書き方をおしえます。
このゲームのやり方はとてもかんたんです。

⑥ **Nがわかる。**

れんしゅう 6-7

「わかる」は、タイ語で[khào cai][rúu]という意味の動詞である。知っている事柄(N)の後に助詞「が」をつける。

日本語がわかりますか。
このことばのいみがわかりません。
「どんな」の使い方がわかりますか。

⑦ **どうしてですか**
-(理由を表す文) から

れんしゅう 7-8

「どうして」は、タイ語で[thammy]と言い、理由を尋ねる表現である。それに対する答えは「(理由を表す文) + から」を使う。

山川先生: 今日もおくれましたね。どうしてですか。
ナロン: えーと、朝ねぼうをしましたから。

理由や原因と結果を一文で伝えたい時、次のように言う。

朝ねぼうをしましたから、今日おくれました。
高いですから、買いません。

⑧ **(方法/手段/道具)で V**

まんがでまとめ

「で」は、乗り物などの移動手段のほかに、述語の動作の方法や道具を示す。また道具を示す「で」は「～を使って」と言い換えることができる。

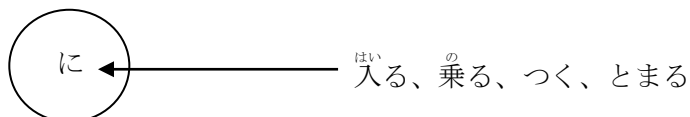
イタリア人はピザを手で食べます。

かんたんな日本語で説明せつめいします。よく聞いてくださいね。
タイ語たいごでてんぷらの作り方かたを書かいてくださいますか。
このけしゴムでけしてください。

ぶんぼう

① (目的地/到着点)に V

れんしゅう 1-2



「に」は様々な関係を表す助詞であるが、この課では、目的地や到着点を表す。主体がその場所まで移動し、その場所に到着したという意味になる。

へやに^{はい}入る

バスに^の乗る

かいしゃにつく

バスでいにとまる

きょうしつに^{はい}入ってください。

このまえのれんきゅうにチェンマイでぞうに^の乗りました。

このひこうきは、何時ごろロンドンにつきますか。

バスは大学のどこにとまりますか。

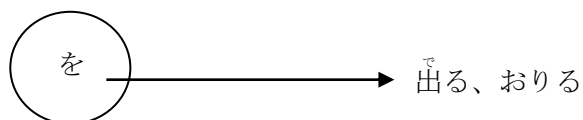
助詞「に」は、上記の動詞のほかに「行く、来る、かえる」も用いることもできる。つまり、「行く、来る、かえる」の動詞は、動作の向かう方向を表す助詞「へ」と動作の終着点を表す助詞「に」のどちらの助詞を用いても、目的地や到着点を示すことができる。

ジョンさんは来月のはじめごろイギリスにかえります。

ひろみさんは今月のおわりにタイに来ます。

② (離れる点)を V

れんしゅう 1-2

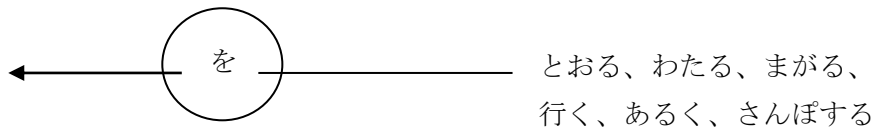


「を」は様々な関係を表す助詞であるが、ここでは、移動の出発点を表す。

何時ごろリーさんの^{いえ}家を出ましたか。

くうこうの^{ちか}近くでタクシーをおりました。

③ (通過点)を V



ここでは、主体の通過点を表す、助詞「を」を取り上げる。

6 2番^{ばん}のバスはびじゅつかんのまえをとおりますか。

あのバスは、はしをわたりますか。

このみちをまっすぐ行ってください。

(= この場合の「行く」は通過することを示す)

今朝そふとそぼといっしょにこうえんをさんぽしました。

④ V1 て、V2 …

「て」形を用いて、いくつかの動詞を接続し、一文にすることができる。タイ語の[lé] [lɛw kɔ̌]と同じ意味である。

6時におきて、夜11時ごろねます。

サイアムでバスに乗^のって、どうぶつえんのむかいがわでおりてください。

シャワーをあびて、朝ごはんを食べて学校に来ます。

きょうかしよをとじて、つぎの質問にこたえてください。

⑤ 助詞「は」

助詞「は」は、文の主題を示すほかに、対比する意味を表す。対比される名詞の助詞が「が」「を」の場合、「は」で置き換える。

電話番号^{でんわばんごう}はわかりますが、じゅうしょはわかりません。

弟は、うではふといですが、足はほそいです。

マンゴスチンは2キロ買いましたが、バナナは買いませんでした。

対比される名詞に「が」「を」以外の助詞が使用されている場合、置き換えずに「は」を付け加える。

学校からは^{ちか}近いですが、家からは^{いえ}とおいです。

きょうしつにはありますが、しょくいんしつにはありません。

対比される名詞に助詞がついていない場合、そのまま「は」を付け加える。

今週^{こんしゅう}はずっといそがしかったですが、来週はひまです。

このくには、昼間^{ひるま}は暑いですが、夜はとてもさむいです。

話し手が、対比する名詞のどちらかを省略することができる。なぜなら、「は」をつければ、ある事

柄と対比する意味を暗示する機能があるためである。

A：コーヒーはどうですか。

B：ありがとうございます。でも、夜は飲みません。

(= ほかの時間であれば飲む。)

ぶんぼう

① **Vている**

れんしゅう 1-2

1.1 動作の進行中・継続中を表す。

- 何をしていますか。
- ニュースを聞いています。
- 妹は出口でまっています。
- 友だちと話しています。

1.2 状態を表す。

どんな服を着ているか、人の姿や格好を描写する。

れんしゅう 3-4

- キラティさんはめがねをかけていますか。
- 黒田さんは今日みどりのシャツを着て、黒いジーンズをはいています。
- ミンクワンさんは赤いスカートをはいています。
- ヌノさんは今日くつしたをはいていません。ベルトもしていません。
- A: ラリターさんはどの人ですか。
- B: ラリターさんですか。あの人です。白いふくを着て、黒いハンドバッグをもっています。

形状、所属、状態を描写する。

- リーさんはやせていますか、ふとっていますか。
- 赤ちゃんはお父さんににっていますね。
- コムサンさんはしんせきの家に住んでいます。
- お姉さんはどこの大学で勉強していますか。
- (= お姉さんはどこの大学の学生ですか。)

② **形容詞／名詞の接続**

れんしゅう 5

性質や形を説明する時によく形容詞や名詞が使われるが、同じ文で2つ以上並べる場合、「て」形で接続をする。形容詞と名詞の「て」形の活用法は下記の通りである。

Adj い 「い」 ⇒ 「く」 + 「て」

- やさしい → やさしくて
- きびしい → きびしくて
- せまい → せまくて

例外

- いい → よくて
- かっこいい → かっこよくて

Adj な + 「で」

ハンサム → ハンサムで
べんり → べんりで

N + 「で」

びじん → びじんで
しんせき → しんせきで

今朝のパンはかたくて、まずかったです。
バンコクは高いビルが^{おお}多くて、木がすくないです。
このしまのビーチは、すなも^{しろ}白くて、水もきれいですね。
ドゥアンテムさんはあたまがよくて、スポーツもとくいです。
このホテルはべんりで、サービスもいいです。
マイケルさんはイギリス人のりゅうがくせいで、二十才です。
ウドムさんは友だちのしんせきで、銀行ではたらいっています。

③ しゅみは Vdic ことです。

れんしゅう 6-7

「NはNです。」の文型を用いて趣味を説明することができる。この場合、「です」の前は名詞にする必要があるため、趣味を表す言葉が動詞の場合「Vdic+こと」で動詞を名詞化するわたしのしゅみは泳ぐことです。

あきさんのしゅみはタイのえはがきをあつめることです。
田中^{たなか}さんのしゅみは本を読むことと、おかしを作ることです。

趣味を表す言葉が名詞の場合、そのまま名詞を使う。

わたしのしゅみは^{すいえい}水泳です。
ナッターさんのしゅみはうたをうたうことと^{もの}買い物です。

④ ～週間／～か月／～年間

よんでみましょう

4.1 週を数える場合、数字の後に「～週間」をつける。

* いっしゅうかん 一週間	にしゅうかん 二週間
さんしゅうかん 三週間	よんしゅうかん 四週間
ごしゅうかん 五週間	ろくしゅうかん 六週間
ななしゅうかん 七週間	* はっしゅうかん 八週間
きゅうしゅうかん 九週間	* じゅうしゅうかん 十週間
なんしゅうかん 何週間	

4.2 月を数える場合、数字の後に「～か月」か「～か月間」をつける。タイ語[neung duan]の場合「一か月／一か月間」となる。

- | | |
|-------|-----------|
| * 一か月 | 二か月 |
| 三か月 | 四か月 |
| 五か月 | * 六か月 |
| 七か月 | * 八か月／八か月 |
| 九か月 | * 十か月 |
| 何か月 | |

4.3 年を数える場合、数字の後に「～年」あるいは「～年間」をつける。

一年／一年間 何年／何年間

このラケットを一週間ぐらいかしてくださいませんか。

いそがしいですから、二週間のりょうはむりです。

タイのなつやすみは二か月半ぐらいです。

山川先生は三年間ぐらいこの学校で日本語をおしえています。

ぶんぼう

① 二つの物の比較

れんしゅう1

二つのものを比較する場合の Q&A は次の文型を使う。

質問： と とどちらが～か。

答え： の方が～。

どちらも～。

A：メコン川^{がわ}とチャオプラヤー川^{がわ}と、どちらが長いですか。

B：メコン川^{がわ}の方が長いです。

A：夏^{なつ}と冬^{ふゆ}と、どちらが好きですか。

B：どちらも好きです。

比較の基準を示す場合は「Nより」を加える。

かんきよりうきの方が長いです。

日本語の方がえいごよりはつおんがかんたんです。

この店の方がむかひの店より物が多くて、安いです。

② 三つ以上の物の比較

れんしゅう2

対象を並列して比較する場合、次の文型を使う。

質問： と と の中でどれがいちばん～か。

答え： がいちばん～。

どれも～

A：ぶたにくとぎゅうにくととりにくの中でどれがいちばん高いですか。

B：ぎゅうにくがいちばん高いです。

A：タクシーとれっしゃとバスの中でどれがいちばんべんりですか。

B：どれもべんりです。

比較対象が、人間なら「どれ」を「だれ」に、場所なら「どこ」にする。

田中さんとジョンさんとキムさんの中でだれがいちばんせがいですか。
バンコクとチェンマイとプーケットの中でどこがいちばん大きいですか。

③ カテゴリー内の比較

れんしゅう3

質問： の中で がいちばん～か。

答え： がいちばん～。

A: スポーツの中で何がいちばんとくいですか。

B: やきゅうがいちばんとくいです。

A: 日本のきせつの中でいつがいちばん好きですか。

B: 春^{はる}がいちばん好きです。

「の中」を省略することができる。

日本語の学生で、だれがいちばんせいせきがいいですか。
せかいで、どの山がいちばん高いですか。

④ 類似する物の比較

れんしゅう4

4.1 同等のものゝ比較

は と^{おな}同じぐらい～。

兄はわたしと^{おな}同じぐらいふとっています。

このお寺はワット・ポーと^{おな}同じぐらい古いです。

4.2 同等でないものを比較

は ほど～。

A: パタヤの海はプーケットの海と^{おな}同じぐらいきれいですか。

B: いいえ、プーケットの海ほどきれいではありません。

にしがわのへやはひがしがわのへやほど広くないです。

⑤ **V ましょう**

まんがでまとめ

「V ましょう」は、勧誘表現である。第7課の誘いかけの文「V ませんか」は、相手に断る余地を与える表現である一方で、「V ましょう」は、相手が断る可能性が低いと想定した上で、よく用いられる。

出発しゅつぱつは三日にして、帰かえりは十七日にしまししょう。
はやく車くるまに乗りまししょう。

⑥ **(間接目的語)に**

まんがでまとめ

第6課では目的語を示す助詞「を」を取り上げたが、この課では 間接目的語を示す助詞「に」を取り上げる。間接目的語とは、動作や行為の向けられる対象、受け取り手を表す。「先生は学生に日本語をおしえます。」を例に挙げると、「おしえる」の目的語は「日本語」で、助詞は「を」である。「学生」は受け取り手であり、間接目的語となるため、助詞「に」が用いられる。間接目的語が用いられる動詞は「わたす、見せる、かす、出だす、かりる、聞く」などがある。

このおみやげを日本のお父さんとお母さんにわたしてください。
となりの人にきょうかしょを見せました。
先生にしゅくだいを出だしましたか。
友だちにえんぴつをかしました。
のりまきの作り方は、あきこさんに聞きまししょう。

ぶんぼう

① Vた形

れんしゅう 1-2

これは動詞の過去形である。活用法は「て」形と同様である。

Vグループ1

辞書形の最後の音を次のように活用する。

う、つ、る	⇒	っ	+	た
買う	→			買った
待つ	→			待った
作る	→			作った
く	⇒	い	+	た
書く	→			書いた
例外： 行く	→			行った
ぐ	⇒	い	+	だ
泳ぐ	→			泳いだ
す	⇒	し	+	た
話す	→			話した
ぬ、ぶ、む	⇒	ん	+	だ
しぬ	→			しんだ
あそぶ	→			あそんだ
飲む	→			飲んだ

Vグループ2

「る」をとって、「た」をつける。

見る	→	見た
こたえる	→	こたえた
閉める	→	閉めた

Vグループ3

来る	→	来た
する	→	した

② **Vた ことがある**

経験を述べる時に使う表現で、タイ語では[k^həəy...]である。

質問：すきやきを食べたことがありますか。

答え：はい、あります。

いいえ、ありません。

見たことはありますが、食べたことはありません。

わたしはうまに乗ったことはありません。

ゆきを見たことがありますか。

からてのしあいを見たがありますが、すもうのしあいは見たことはありません。

③ **Vて みる**

「Vて」に「みる」を接続した表現。上手くいくかどうか、正しいかどうかは分からないが、「ある行為を試みる」という意味を表す。タイ語は[loŋ^h thəm]である。

これを食べてみませんか。

日本のせっけんで顔^{かお}を洗^{あら}ってみました。

あしたおすしを作^{つく}ってみます。

このナイフで切^きってみてください。

今度リーさんにかんこく料理^{りょうり}の作り方を聞いてみましょう。

注意事項 「みる」は漢字で書かない。

④ **V1 てから V2**

「てから」は、V1 が実現した後に、V2 が実現するというように、二つの動作に前後の関係があることを表す。

手を洗^{あら}ってからごはんを食べてください。

やさいを切^きってから、肉^{にく}を切りましょう。

しゅくだいはいつもよくふくしゅうしてからします。

エアコンはまどを閉^しめてからつけてください。

⑤ **はじめに、つぎに、それから、さいごに**

動作の行われる順番を述べるのに用いられる接続詞。

はじめに [andàp rĕek]

つぎに [tòo pay]

それから [càak nán]

さいごに [sùt tháay]

はじめにおゆをわかします。
つぎにめんをいれます。
それから肉とたまごをいれます。
さいごにやさいをいれます。

⑥ (動作結果の場所・状態)に

まんがでまとめ

この課では、動作の結果が残る場所や、動作の結果が残る状態を表す、助詞「に」を取り上げる。
例えば、誰かが何かに名前を書く場合、その名前が書かれるものに「に」をつける。

このかみにおなまえを書いてください。
なべにあぶらをすこし入れます。
はなをむねにつけてください。
こたえの下に赤いペンでせんをひいてください。
あのいわにすわりましょう。

⑦ 1 (助数詞)も (否定形)

まんがでまとめ

タイ語で[mây...ləəy mée tɛɛ 1...]という意味である。

日本のすきやきは一回も食べたことはありません。
わたしたちのグループには男の人は一人もいません。
このへんには食べ物のお店は一つけんもありません。

⑧ 味／におい／音 がする

まんがでまとめ

味やにおい、音についての話し手の感覚を表す表現。

〈食べたことのないおかし味について聞く〉

このおかしはどんな味がしますか。

〈アイスクリームを食べてみたら、マンゴーの味がした〉

ああ、マンゴーの味がしますね。

〈赤ちゃんを抱いた時、ミルクのにおいがした〉

赤ちゃんはミルクのにおいがします。

〈台所に入ったら料理のにおいがした〉

いいにおいがしますね。

〈友達のギターを弾いてみた時〉

このギターはいい音がしますね。

〈変な音が聞こえた時〉

へんな音がしましたね。

ぶんぼう

① 授受表現(あげる／くれる)

授受表現は動作や行為そのものである目的語と、その動作や行為の受け手である目的語の二つの目的語を取る。前者を直接目的語、後者を間接目的語という。間接目的語である対象は助詞「に」によって表される。以下に挙げる 1.1「あげる」1.2「くれる」2「もらう」の授受表現は、「与え手」なのか「受け手」なのか、どちらかの立場に立つのかによって、用いられる表現がそれぞれ異なる。そのため、タイ語の[hây]にあたる日本語の動詞は以下のように使い分けられる。

1.1 あげる

れんしゅう 1, 4-5

話し手や話し手の身内が誰かに物をあげる場合、または、与え手と受け手が話し手と無関係の人である場合に使われる。

^{ながやま}長山さんはクラスの友だちにおみやげをあげました。

このネックレスは、だれにあげますか。

キムさんはおじいさんにタイのネクタイをあげました。

1.2 くれる

れんしゅう 2, 4

誰かが話し手や話し手の身内に、物をあげる場合に用いられる。物の受け手が話し手の場合は、普通は「わたしに」が省略される。

^{りょうしん}両親は毎年（わたしに）たんじょう日のプレゼントをくれます。

^{きんじょ}近所のおばさんは妹にめずらしい人形をくれました。

このさいふはカチェーンさんがくれました。

② 授受表現(もらう)

れんしゅう 3-5

「もらう」は、タイ語で[dâay ráp]である。与え手は、助詞「に」で表される。

ソムルタイさんはこいびとにすてきなカードをもらいました。

^{あきた}秋田さんに日本の切手をもらいました。

姉にコンサートのチケットを2まいもらいました。

注意事項「もらう」は主語の制約がないが、「わたしにもらう」は言うことはできない。

③ ^{まえ}～前に／^{あと}～後で

れんしゅう 6

「^{まえ}～前に」「^{あと}～後で」は、主文の動詞を修飾して、その動作が行われる時を表す。「^{まえ}～前に」と「^{あと}～後で」の前にかかる言葉は次のような制約がある。

Vdic	+ ^{まえ} 前に	___ V
Nの		

Vた
|
+ 後に _____ V
Nの

A: いつしゅくだいをしますか。

B: ご飯を食べる前にします。

C: ご飯を食べた後でします。

みちをわたる前に、左も右もよく見てください。

エアコンをつける前にまどを閉めましょう。

じゅぎょうに来る前によくよしゅうしましたか。

とうきょうを見物した後で、おおさかへ行きました。

アユタヤを見学した後で、さくぶんを書いて出してください。

「後で」は、前に修飾語をつけずにそのまま使うと、タイ語で[nay phaay lǎŋ][thii lǎŋ]という意味になる。

出発の時間は、後でしらせませす。

④ Vたり Vたり する

れんしゅう 7-8

いくつかの動作を、例として並べるときに用いる表現である。並べた動作以外にも、他の動作があることを暗示する。また、動作が起こる順は関係なく使われる。

おしろやじんじゃを見たり、山にのぼったりしました。

A: 日曜日には、何をしますか。

B: いぬとあそんだり、兄弟とバドミントンをしたりします。